

令和 8 年 2 月 13 日
10 時 31 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 15 番 氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

- 1 施政方針における多様な生き方・価値観の受け止め方について
 - ① 施政方針では、まちづくりや子育て、地域像について一定の方向性が示されているが、市民の生き方や価値観は多様化している。こうした多様な生き方を市としてどのように受け止めているのか伺う。
 - ② 「浜田らしさ」という言葉は、地域への誇りやアイデンティティを育む一方で、特定の生き方を前提としているように受け取られる場合もあり、表現には配慮が必要と考えるが、市長の考えを伺う。
 - ③ 「育ち、育てる、浜田」を進める上では、社会的に弱い立場の人や働く人も含め、誰もが尊厳を持って生きられる「人にやさしい街」という理念が重要だと考える。市長が描く「人にやさしい街」とはどのようなものか伺う。
- 2 農林業振興の前提となる安全な作業環境の保全について
 - ① 農業・林業の振興について様々な施策が示されているが、その前提条件である作業環境が鳥獣被害により深刻な影響を受け、耕作放棄や離職につながりかねない現状にある。農業・林業の担い手が安心して作業できる環境の維持について、市の考えを伺う。
 - ② 鳥獣対策については地域や区域を絞った対策や捕獲だけに頼らない体制づくりなどが進められている。限られた予算や人員の中では難しい面はあるが、人の安全を守ることを最優先し、作業環境の保全に向けた実効性ある鳥獣被害対策についての考えを改めて伺う。
- 3 就労支援を軸とした障がい者福祉の充実について
 - ① 障がい者福祉では理解促進や困難事例への対応が示されているが、共生社会の実現に不可欠な就労支援についての記載が見当たらない。障がいのある方の就労をどのように位置付け、支援体制を整えていくのか伺う。

4 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりについて

- ①人口減少が進む中、将来的に消滅集落が生じる可能性は否定できない。コンパクト・プラス・ネットワークを進めるための立地適正化計画は作成途中ではあるが、行政効率化ではなく、市民一人ひとりの暮らしと尊厳を守る計画であるべきと考える。市としてどのようなまちの姿を目指すのか、基本的な考えを伺う。
- ②コンパクト化を進める中でも、中山間地域や集落に暮らす高齢者の買い物環境の維持は重要である。市としてどこまで関与していくのか伺う。
- ③医療機関が中心部に集中している現状を踏まえ、安心して通院できる交通手段をコンパクト・プラス・ネットワークの中でどのように位置付けているのか伺う。

5 カスタマーハラスメント防止条例について

- ①すべての労働者を対象とすることで対応が抽象化し、条例の実効性が弱まるのではないかとの懸念もある。この点について市の認識を伺う。
- ②雇用主として市が職員を守る責任と併せて、指定管理者や委託事業者への関与・支援について、どのように考えているのか伺う。
- ③条例の実効性を高めるため、マニュアルや運用指針など具体的なルールを整備する考えがあるのか伺う。

6 教育課題への対応と現代社会を生きる力について

(1) 「賢く縮む」教育体制づくりについて

- ①「賢く縮む」という言葉から、学校統廃合や人員削減といったマイナスの印象を持つ市民も少なくない。何を守るための取組なのか市としての考えを伺う。
- ②賢く縮む教育体制の中で、子どもの学びや育ち、教職員の働く環境について単なる効率化にとどまらない変化をどのように実現していくのか伺う。

(2) 非核自治体宣言と平和教育について

- ①非核自治体宣言を理念にとどめず、国際情勢が不安定化する中で、平和や核兵器の問題をどのように次世代へ引き継いでいくのか、教育方針との関係で伺う。
- ②被爆者の高齢化が進む中で、被爆体験や核兵器廃絶の思い、被ばく2世・3世の声を平和教育の中でどのように受け止め、子どもたちに伝えていくのか伺う。